



## 投資とは？新興国は長期が大前提

新興国投資について考える前に、そもそも「投資」とはどのような意味なのか確認してみましょう。今回はまず「投資」とは何かについて確認し、そして新興国投資を行う際の注意事項についてお話していききたいと思います。

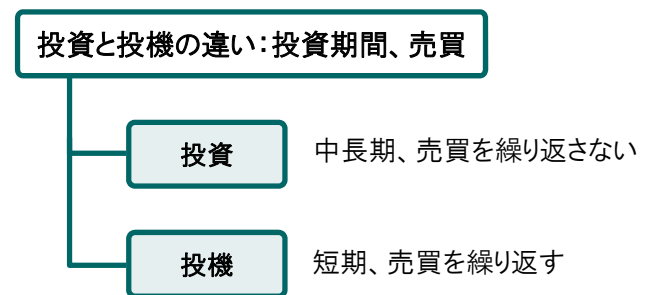
### 投資とは？投機との違い

新興国投資について考える前に、そもそも「投資」とはどのような意味なのか確認してみましょう。広辞苑を見ると、投資とは「元本の保全とそれに対する一定の利回りとを目的として証券を購入すること」と、書いてあります。また投資と似た言葉に「投機」があります。投機とは「損失の危険を冒しながら大きな利益をねらってする行為」と書かれています。どちらもお金を増やそうとする行為で、投資でも投機でも損をすることはあり、共通点もあるように感じます。では、両者の違いは何でしょうか。それは「期間」と「売買の頻度」だと考えられます。

まず、投資は原則として売買を繰り返さず保有し続け、投資先の資産がもつ本源的なりターンを時間をかけて積み上げ、その力によってお金を増やそうとするものです。本源的なりターンとは、例えば、債券投資の利金収入等が挙げられます。

一方、投機は短期の価格変動を利用した売買を繰り返して、お金を増やそうとするものです。短期売買を10年20年と繰り返していった場合、勝ち続けるのがどんどん難しくなり、後半に大きな金額で負けてそれまでの勝ちを吹き飛ばしてしまったり、大きな金額を運用することでそれまでのような判断ができなくなったりする可能性もあります。つまり、投機は運用期間が長くなるほど不利になっていくと考えられます。投資のつもりが実は投機になっていた、ということがないように気をつけましょう。

図表1:投資と投機の違い



#### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

### 新興国への投資

新興国への投資には、先進国と比べて大きなカントリーリスクや流動性リスクなどが伴います。また、価格変動リスクも先進国投資と比べて大きくなります。一方で、リスクと引き換えに、先進国では期待できないような大きなリターンが期待できるというのが新興国投資の魅力の1つと言えます。

新興国はその高い経済成長を背景に、先進国に比べ相対的に金利が高い傾向にあります。単位を分かりやすくするため、ドル建ての債券に投資した場合の例を見てみましょう(図表2)。もしこのケースのように債券利回りが高く、6%あったとしても、2か月間しか投資しなければインカムゲインはほとんどなく、短期では為替変動の影響で損益がほぼ決まってしまう。

しかしながら、5年後にはインカムゲインの積み上げが大きくなり、為替レートが投資開始時点より20%円高になっていても、円換算のリターンは4%のプラスになっています。

また、実際に新興国が中長期的に大きな経済成長と株価上昇を遂げた例を見てみましょう。

第二次世界大戦後の日本が大きな経済成長を遂げ、日本株式がその経済成長を反映して大きく成長したように、他のアジア諸国でも、大きな経済成長を株式市場が反映した例は確認できます(図表3)。

なお、国の大きな成長や発展は数か月や数年で達成されるものではありません。新興国の債券や株式に投資開始し、数か月や数年といった短期間で大きな経済成長やそれを反映した大きなリターンを期待するのは性急というものです。

図表2:ドル建ての債券投資の例

	現在	2か月後					
\$建債券価格	\$100	\$100					
債券利回り	6%	6%					
債券利息累計		\$1					
\$建資産合計	\$100	\$101					
		x	x	x	x	x	x
\$1 =		100円	80円	90円	100円	110円	120円
		=	=	=	=	=	=
円換算	10,000円	8,080円	9,090円	10,100円	11,110円	12,120円	

	現在	5年後					
\$建債券価格	\$100	\$100					
債券利回り	6%	6%					
債券利息累計		\$30					
\$建資産合計	\$100	\$130					
		x	x	x	x	x	x
\$1 =		100円	80円	90円	100円	110円	120円
		=	=	=	=	=	=
円換算	10,000円	10,400円	11,700円	13,000円	14,300円	15,600円	

図表3:各国の経済成長と株価上昇

	1950年12月		2019年12月	
日本経済*	JPY 3.8兆	⇒	JPY 557.7兆	146倍
日本株式	JPY 101.9	⇒	JPY 23,656.6	232倍
	1970年12月		2019年12月	
香港経済	HKD 0.02兆	⇒	HKD 2.92兆	124倍
香港株式	HKD 211.6	⇒	HKD 28,189.8	133倍
	1970年12月		2019年12月	
台湾経済	TWD 0.2兆	⇒	TWD 18.2兆	73倍
台湾株式	TWD 123.4	⇒	TWD 11,997.1	97倍
	1979年12月		2019年12月	
インド経済	INR 1.1兆	⇒	INR 209.0兆	187倍
インド株式	INR 118.8	⇒	INR 41,253.7	347倍

\*日本経済:1950年12月はGNP、2019年12月はGDP  
いずれも現地通貨ベース。日本株式:日経平均株価、香港株式:ハンセン指数、台湾株式:台湾加権指数、インド株式:SENSEX指数  
出所:内閣府、IMF、ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成